

物に近づぐことは極めて困難であつた。彈藥列車の貨車のなかで、その上が車掌室になつてゐる、高さ三〇糎ほどの上り段の下に數箇の小包が発見された。この品物は車の幅だけの長さがあり、深さが一米半の低い上り段の奥ふかく暗いところに隠されてあり、少し長い棒でもあれば簡単に取出せるやうになつてゐた。

切手の鍵もあげておかなくてはならない。一番多いのは郵税用として用ひられてゐる切手の端のギザギザの或るものを切りとつて、手紙の内容から読みとるべき字母あるひは語の順序を示すのである。

露西亞の間諜たちは、その情報を分數形の數字によつて傳達した。分子は特定の書籍（小説など）の行數をあらはし、分母はその本のその行の字母をあらはした。このやうに記號で書かれた字母を綴ると、暗號の文章ができ上るのである。

これらのトリックの多くはハンブルグで捕へられた露西亞の材木商リアンデルの自白によつて知つたものである。この男はひろく分布されてゐる間諜團の首魁であつた。文書による情報——明文にせよ暗號にせよ——をあらゆる種類の日用品のなかに巧

みに隠し、見つけられぬやうに目的地にとどけるために用ひられたトリックの數は何千何萬とある。

### 間諜が好んで用ひたもの

間諜たちが好んで用ひたものは、彼等の衣服および下着類である。長靴の中空な踵のなか、カラーやカフス釦のなか、とくにネクタイを結んだをりのカラーのなか、清潔なまたは不潔なハンカチの上、——ときにはハンカチにモールス信號が縫ひこまれまたは合せ縫ひされたりした、——胸當の内側、下着の表面、ズボンの締金、時計の内蓋のなか、時計ケースちゆうの時計保護用の貼り布の下、ジャケツの襟のなかに縫ひこまれた幅五糎、長さ六〇糎の細長いリンネル帯の表面、オーバーおよび上衣の肩部の詰物のなか、口のない祕密のポケットおよび衿のなか、袖の祕密ポケットのなか、假髪の下、ズボン吊りの吊紐の上に縫ひつけられ、押釦どめになつてゐる小さなポケットのなか、袋のやうに編まれた靴紐のなかなどあらゆる場所から祕密情報が発見された。

また、外套およびジャケットの釦のかぶせ布、日傘、雨傘の中空な末の端、英國製のソフト帽、山高帽の二重底、旅行用小鞆の握り手のかぶせもの、本の表紙、手袋の指のさき、中空の鍵、磨きのかゝつた背面部を、本當のブラシにねぢでとめた頭髮ブラシおよび洋服ブラシ、耳および鼻の孔の詰め綿、積み重ねられた空の果物籠や野菜籠、萬年筆の軸、両端を蕊でふさいだ中空の鉛筆、中空にしたコルクや包装材料（紙紐のとき）などは情報を秘密に傳へるために用ひられた。

間諜を告白したブラーグ新獨逸劇場の女歌手ラヴァンは、その報告を秘密インキで自分の絹のスカートに書いたと自慢した。一時は幸運が彼女に味方したやうに見えたが、何百人かの女間諜仲間が當然の運命を彼女にわかつた。ギブス繻帯のなかに情報を隠すため腕を挫いたごとく見せかけ、あるひはコルセット棒のまはりに圖面を巻きつけ、あるひは材料をスカートのなかに縫ひ合せ、あるひは帽子裏または特別につくつた頭髮詰物に隠した。——にもかゝらず、彼女等はことごとく正體を暴露された。

洋傘の飾總のトリックも間もなく手がかりが発見された。飾總のなかの布でつゝま

れた木の蕊を剝り抜き、このなかへ五ペニー白銅がはいる太さでブリキ莢の形をした計算錢入器へ嵌めこむ。莢の中空部にはなかに入れた白銅（十箇入れ）をおさへるためのブリキ板のついた螺旋バネがあり、このバネに押された白銅を受ける方のブリキ莢の縁が折り込みになつてゐて白銅が外へ落ちるのを防ぐ。垂れさがつてゐる總が情報仲介の役をするブリキ莢を隠す。計算錢入器が発見されたときは、はじめは他愛のない道樂と思つたが、つひにバネのなかおよび白銅のあひだから報告を書いた薄葉紙が発見された。

間諜文書は二重ブリキ罐、二重底の酒樽、ボール箱、小箱およびトランク、コーヒー壺、とくに剝り抜かれたパンのなかに入れられて密輸送された。或る國境監視所において、一つ一つ薄紙でつゞんだ四箇の鶏卵が差押へられたが、この卵には秘密インキでポーランド語の通信文が書いてあつた。獨創的なのは『偽造兎』のトリックであつた。兎を斷ち割つて臍物を出し、密封した硝子のケースまたは豚の膀胱のなかに入れられた情報を腹のなかへ入れ、これをふたゝび縫ひ合せるのである。『罪のないラン

プ』はもちろんなんの故障もなく、國境を越えてもち出すことができたが、つひに人はその蒙をひらかれた。

煙草も通信方法の役目を引受けた。葉巻の外包葉を取り情報を葉巻のまはりに巻きつけ、その上へふたたび外包葉をつけるか、あるひは外包葉をつけた葉巻の形にした葉が使用された。葉の一部に煙草をつめておき、國境を通過するとき葉巻に火をつけるのである。情報の傳達はまたねちで取りはづしになつてゐる葉巻ホルダーのなかに入れた紙製乾燥差込器によつて行はれた。この差込器はパイプの乾燥差込器のやうに小形につくられ、長さは三種であつた。

とくに巧妙なものに三マルク、五マルク銀貨、五ペニー白銅、和蘭の二グルデン半貨等の貨幣トリックがあつた。貨幣にロールをかけてつくつたうすい板をねちでとめ、なかを空にしたものであるから、鑄貨を上へ投げてみただけですぐ鑑別ができた。ロシアポンポンの皮の内側、普通急行の食堂車の食卓布、マッチ箱のペーパーの下、籠や鞆の裏張りのなか、鞆などにつけられた名札の下などに秘密情報が發見された。

或る間諜の上唇のうしろと齒齦のあひだから情報の書かれた日本紙を針に巻いて入れた直徑一耗半のゴム管が發見された。もつと巧妙なのにこんなのがあつた。或る露西亞間諜は圖を書いた薄葉紙を踵の一部を剝いたなかに入れてゐたのである。

聯合國側の間諜たちは、その探知した情報を中立國を通して目的地にとゞけるため、なほ他のいろ／＼な方法を使つた。戦争ちゆう獨逸の國境を通過する無辜の旅行者はしばしば身體検査の際の嚴重を極めた處置にたいし苦情を申立てた。しかし監視官としては、秘密情報の手がかりを見つげるためには、旅行者の頭のさきから足の爪さきまで調べるよりほかには方法がなかつたのである。彼等が内部のものに自分の身分を眼で知らせなければならぬ場合も實際しばしばあつたのである。

聯合國側は絶えず新たな手段を用ひた。その一つは情報仲介に用ひられる小氣球である。コルトリック近傍で一つの木製十字架に結びつけて、上書きに『開封を乞ふ』(佛語)と赤字で書かれた紙の袋が發見された。その中味は高さ一米、直徑八五厘の青白赤の紙でできた梨形の氣球、リンネルの袋と紐でつゝまれ、上書きに『あらゆる

善良なる佛蘭西人、もしくは白耳義人に——『紙氣球使用心得』（佛語）——（同様の文句がフランデル語でくりかへされる）と書かれた情報送達の使用書および次ぎのやうな心得と略圖を記した白い正方形の紙とであつた。すなはち、『氣球の口より燈火瓦斯を入れて氣球をふくらませ、次いで報告をその口にはさみ、同封の紐をもつて口を堅くしばられたし。航行ちゆう徐々に瓦斯の抜け去るを得しめるため、報告の端は口より一糶外に出るを要す。すなはち氣球は貴下が發見されしそのまま、われくゝに返還されたし』この心得はフランデル語でくりかへされてゐた。

陸軍氣象勤務によつて氣流測定に用ひられる球形の紙袋氣球が見つかつた場合、しばしばその出所を調査するのに非常に時間がかゝつたため、これらの氣球には『獨逸氣球、破壊無用』と書いた黄色の貼紙がつけられた。大戰ちゆう獨逸においては、氣象情報は敵國に利益を與へることにもなるので、獨逸氣象通報の祕密保持の規定が公布された。遮斷地域においては、氣壓線および風矢記號のはいつた氣象圖の公表や氣壓および氣流状態の報告が禁ぜられ、またそれが地表面の溫度、濕度、雲、降雨、水

の状態報告および暴風報告以外のものを含まない場合においてさへも、上空の氣流の通報や表による氣象通報が禁ぜられた。

敵の間諜勤務には動物さへも使用された。敵の間諜勤務に雇はれてゐる一人の羊飼ひが調教した結果、彼のシニパーはほとんど毎夜、和蘭北ブラパンド州の主都アインドホーヴェンの近くで、恐るべき死の電線、白耳義と中立國のナランダとのあひだにある五萬ボルトの電流の通じた條柵を飛び越えて、その頸環に隠した密書を敵國に傳達した。

しかしまた敵國は、一見邪意がないやうであるが、知つてゐるものにとつてはまことに容易ならぬ他の手段をもつてゐた。畫家ハーデーの『裏切者』といふ繪に、二匹の山羊をつれて畑を歩きながら紙巻煙草に火をつけてゐる仕事着的佛蘭西の百姓を描いたものがある。獨逸防諜勤務には前から、佛蘭西の百姓たちが、たとへば人目を避けて牧場へ馳り出す家畜の數によつて、或る土地に兵士がゐるとか、部隊が進軍ちゆうであるとかいふやうな危険のあることを知らせる合圖としてゐることが知られてゐる。

た。また風車の翼、色のついたカンテラや旗、鐘の音、教會時計臺の針などによつても合圖が送られた。サンカンタンでは電話を盗聴して敵に内通してゐた老人夫婦が捕へられた。

### 賞金を賭けた英國

一九一七年から八年へかけての英佛情報勤務は、獨逸工業都市および軍事施設にたいする攪亂目的および空襲のための地圖、設計圖の材料を手に入れようと非常に骨を折つた。これは成功した。公式には作戦地域に沿つてゐる、いはゆる保護地帯には風景の撮影と風景繪葉書の販賣が禁ぜられてゐた。そのころスイスで發覺した各種の間諜事件で、敵國の間諜たちがバイエル領プファルツおよびマインツ地方の測量圖、フライスガウのフライブルク、カルルスルーエ、ロットヴィルとその火藥工場、プフォルツハイム、フリドリッヒスハーフェン、トルエル、マンハイムなどの地圖、クルップ工場の詳細圖を含むエッセンの地圖、ウンテルテュルクハイムのダイムレル工場の設計

圖を手に入れることに成功したことがたしかに認められた。地圖のなかの空襲に關係する施設には特別の記號がつけられた。敵國の間諜はまたグリースハイムにおける硝石工場、カイゼルスラウテルンにおける諸工場、ハーゲナウに新設された榴彈工場の位置見取圖を手に入れる命令を受けてゐた。マンハイムの見取圖には三千フランが支拂はれた。

英國は賞金を賭けた。一九一八年敵國のための間諜行爲のかどで逮捕された獨逸の水夫ヤーコプ、あるひはクニユスケンの自白したところによると、獨逸皇帝の暗殺にたいしては百萬マルク、その手段を問はず潜水艦一隻の沈没にたいしては五十萬マルク、造船所または橋梁の爆破にたいしては、二十萬マルク、暴動または罷業にたいしては、五萬マルク、一般の情報にたいしてはその價值に應じ五千乃至二萬マルクの賞金が賭けられてゐた。この賞金の高は和蘭の英國總領事館で或る英國陸軍大佐が彼に讀んで聞かせたのださうである。

間諜にもたせてやる偽造書類の製作では、敵國の情報勤務は異常な巧妙さを發揮し

た。ジュネーヴには聯合國の企畫所があつて、長年これに従事してゐる専門家にもその偽造がわからないほど巧みな偽造旅券を製作してゐた。その間諜たちが文書、衣服その他に圓内に書かれたマテン書體の大文字『M』をつけてゐることで見わけられた。英國情報勤務は瑞典でその目的のため偽造の瑞典旅券を使用した。金屬環で旅券に固着された寫眞は注意ぶかく取り除かれ、他の寫眞にかへられた。大形の和蘭旅券では以前の査證記入事項のあひだに、獨逸旅券では未使用の頁に、鉛筆で、軍事旅券の場合には、ときには行と行とのあひだに情報が書きこまれた。

スイス警察は一九一五年の秋、スイスで詐欺的な養子縁組、歸化、旅券商賣をしてゐた辯護士、公證人兼アルゼンチン副領事B・イン・ルガノの假面を剝いだ。公證人として彼は偽の養子縁組を登記し、歸化の世話をし、養子縁組によつてその氏名を、歸化によつてその國籍をかへ、これらの人々に偽造の旅券、とくにアルゼンチン旅券をわたしてゐたのである。二三の間諜たちは國境通過のときに、囚人にたいして發行されるやうな除名證書を使用した。これらの間諜の或るものはあらゆる用心をしたにも

かゝはらず、偽造は逮捕の誘因となつた。これらの偽造のなかには、悲喜劇的な外觀をもつてゐるものも少くなかつた。たとへば、或る歩兵師團の本物の公印には『Division』が誤つて『Divison』となつてゐたのに、偽造の印章には正しく『Division』と書かれてゐた。他の公印には『Infanterie』の語の略號として『Inf.』を書かないで、誤つて『Inf.』と書いてあつた。エルザスのシユトラースブルグにおける第十五軍團の郵便監視局の新しい公印が使用しないうちに盗まれた。この印章には製作するときの過失で、規定のプロシヤ鷲の代りに帝國鷲が彫りつけられてをり、これによつて盗んだ印章のついた身分證明書はすぐ見わけることができた。

ストックホルムでベルリンシエーネベルクの警視廳のゴム印を註文した或る間諜を捕へることができた。この印章も丸印の鷲の形が本物とちがつてゐた。すなはち本物は紋章のない鷲であるに反し、この偽物には紋章のはいつた鷲が描いてあつた。記名は證明書式の所書のところに偽の印章には『ベルリンシエーネベルク』の代りにたゞ『シエーネベルク』とあつた。間諜の疑ひあるジプシーの住居を搜索した際、誰

でもだまされるくらゐうまく真似た印章、完全無缺に印刷された證書に、『ブラウンシュヴィクのプロシヤ王室警察署』の圈状銘のしるされてあるのが発見された。僅かにブラウンシュヴィクをプロシヤの都市としるした印刷者の地理的な無智によつて、この證書を偽物と認めることができるだけであつた。

ジプシーは一般に好んで間諜に利用された。たとへば多数のジプシーの住居に、ライトのプロシヤ王室徴兵區司令部といふ模造印章を捺した偽の除隊證明が発見された。

印章や封印の型をとるため間諜は堅く茹でた卵を用ひ、この殻を取つてまだ暖いうちに印刷物の上へ轉がす。相當の注意をばらへばその卵で原本と寸分ちがはない數枚の複寫をつくることができた。露西亞の間諜たちは、普通行はれてゐる印章の大きさのまるい木版に旋盤で凸起狀の同心圓を二つ掘り、この中間の溝にゴム活字をならべ、中央のへこんだところへ二マルク銀貨の鷲を印刻したものを嵌める方法を用ひた。捺印の場合任意の圈状銘を入れることができた。

聯合國は中立國をその目的のために利用する點にかけてはなかく大したものであつた。土耳其、西班牙、ルーマニヤ、ギリシヤ、サンサルバドル等の旅券の詐欺は頗る廣範圍に行はれた。西班牙に行つたこともなく、西班牙語もしやべれない間諜が西班牙の旅券をもつてゐた。ヴァレンシアの或る羊毛會社は佛蘭西の情報勤務に獨逸および奧太利、ハンガリーに旅行する人のため、名前の個所を空白にした四つの證明書を自由に使はせた。不運なことに獨逸の間諜は佛蘭西の情報勤務に屬する七人の西班牙人が獨逸に入りこむであらうことを聞きこんだ。

### 英國の間諜教育

英國は優れた間諜のおかげで獨逸の艦船が出發するときにはきつとこれを知つてゐた。英國は組織的な方法をとつてゐた。たとへば英國の情報勤務はその間諜に次ぎの質問用紙を與へた。

『一、キールの造船所においては現在いかなる船舶が建造中であるか。仕事はどの

程度まで進捗してゐるか。いつ進水するか。

二、ホーヴルト造船所で建造された輕巡洋艦の名はなんといふか。同艦はすでに軍務についてゐるか。

三、『エムデン』と名づくる輕巡洋艦が帝國造船所で建造中ではないか。それはニオベ號の代艦をつくらんとするのか。

四、『四二種砲』および『駐退機』の大きさ、速度、砲種、型等に關する報告事項は？この級の艦船は何隻あるか。

五、最新の水雷艇は砲を何門備へてゐるか。

六、スカゲラック附近の海戦に参加した艦船でいまなほ修理のためドックにあるのは何々か。

七、敵國の港および海上同盟罷業力一般についての貴下の見解如何。一般的に海洋に利害關係のある報告を望む。』

マーツユトリッヒ、エンマプライン十二番地の間諜局の一質問用紙——その恐るべ

き獨逸語は起草者が外國人でないことを示してゐる——は次ぎのやうな調査を要求した。

『一、造船所においてはいかなる艦船が建造中であるか。

ハンブルク——ブロームIIウントIIフオス、ウルカーン造船所、ライエルシュ

テイク造船所、シュテユルケン造船所。

ブレイメン——ヴェーゼル造船所、アトラス工場。

ブレイメン近傍のヴェーゲザック——ブレイメルIIウルカーン。

ゲーステミュンデ——ゼーベック造船所、J・G・テックレンブルグ。

キール——帝國造船所、ゲルマニア造船所、ホーワルト工場。

ウィルヘルムスハーフェン——帝國造船所、新水雷艇造船所。

シュテツティン——ウルカーン造船所、オーデル工場、ミュッシュケ。

ダンツイッヒ——帝國造船所、F・シヒャウ。

エルピング——F・シヒャウ。



造船所の造船臺は海に向つて右から左へ番號をつけねばならぬ。そして各造船所にある艦船および建造の進行度につき説明を願ふ。

(例)

- 一、ハンブルク、ヴルカーン造船所、第一造船臺、輕巡洋艦、骨組建造中。第二造船臺、長さ約七〇米の潜水艦二隻、ほとんど完成。第三造船臺、大巡洋艦一隻、屋根のところまで完了。第四造船臺、大巡洋艦一隻、修理中。
- 二、造船所の報告を提示する際に、目下いかなる艦船が修理中なるか附記願ひたい。
- 三、いかなる輕巡洋艦、『四二種砲』級が今日まで軍務についたか。またその武装如何。
- 四、潜水艦ドイチュランドは改造されたか。當艦の有する水雷發射管およびその豫備發射管の數如何。
- 五、S 一一三よりS 一五五、S 一一六より一一八、一一九より一二二、S 一二三より一三四までの新しい潜水艦の裝備如何。その有する煙突および水雷發射管の數如何。

數如何。

六、U・B・四八型およびその後つくられたU・B型の潜水艦の次ぎの特性につき述べられたし。

- 一、水雷發射管の數。
- 二、裝備。當艦は敷設水雷を載せてゐるか。』

### 宣傳の威力

獨逸に害を加へる必要から敵國の間諜たちはあらゆる方法で、爆藥を密輸入せんとした。小麥袋に入れ、あるひはパンのなかへ焼きこみ、伊太利からスイスを通つて輸入される生レモンの箱のなか、食料品箱につめられた特殊のリットル壺、あるひは圓筒形の鋼鐵罐のなかへ隠された。そして、脂桶に入れられてアメリカを經由して和蘭へ送られ、あるひは國境を越え、あるひは海路によつて密輸入された。

火災をおこさせるためには、長さ約一〇種、幅三—三・五種、上書きに2・3または3

とだけしるした黒色の厚紙外装を施した硝子彈藥筒が用ひられた。蓋をとると藥包つみの内部を隔離した厚紙蓋から一種突出してゐる硝子尖頭の三分の一が見える。人がこの藥包をあける際硝子尖頭が折れ、これを枯草、藁のやうな可燃物のなかへおくと、上記の數字にしたがつて二時間半、三時間一五分、または三時間半の硝子筒のなかに含まれた物質が空氣の作用で弱い火焰を發し、その火焰が五六分間つづき、一米の高さに達するといふ仕掛けになつてゐる。

水力發電所爆破の目的には長さ約一米半、直径六・八一—三糎のピクリン酸をつめた爆彈が使はれた。この爆彈は水中では垂直に浮游する。大きな爆彈は強力な鋼鐵橋梁を爆破することができた。

地圖のなかの空襲の目標となる施設にはとくに印がつけられた。一工場、一彈藥廠、あるひは一艦船の爆破にたいし、佛蘭西政府は三千—四千フランを支拂つた。撮影の手段はハンドバッグ、鞆、望遠鏡、懷中時計、外套の釦、本、ステッキなどの形をした祕密カメラであつた。

一九一六年の初春、獨逸の防諜勤務は、英國側で時計仕掛の爆彈を和蘭國境を越えて獨逸に密送せんとしてゐることを聞きこんだ。それは事實であつた。爆彈と附屬の時計仕掛けを小麥粉のつまつた袋に隠してもちこまんとした數人の間諜を逮捕することができた。和蘭に爆彈密輸を行ふための大結社がつくられてゐることが調べ上げられた。液體爆藥は機械油として申告され國境を越えてもちこまれた。

佛蘭西の間諜たちは、また獨逸の馬匹總數を馬鼻疽バチルスによつて滅殺せんとした。井戸や水飲場のなかへ投げこまれたこの白色バチルス錠劑は、獨逸のアスピリン劑より幾分小さかつた。

間諜たちはこの錠劑に裸手で觸れることができなかった。病源バチルスが或る間諜の英國旅行帽の顎紐のホックの穴のなかへ發見された。

現代の無電技術は交戰國に多く用ひられ、情報制度全體に特異な色彩を賦與した。無數の海上陸上の放送局が情報を全世界に放送した。無電聽取局の電信技師の耳にひびいたものはまことに渾沌たる騒音であつた。軍隊はいづれもその無電通話を聽取す

るために各自獨特の型の機械を用ひ、その上さらに交戦國の言語ならびに文化程度は多種多様であつた。——その結果、密集的に各戦線區に分布された無電聴取局の活動方法もいろくさまぐであつた。奥太利、ハンガリーの無電聴取局は電信聯隊のフイグル大佐の指揮下にあつた。聴取されて他のものには解きえない暗號で、この暗號解讀の達人の見抜き得ないものはなく、他のものが一日ぢゆう頭をしぼつてもわからない、極度に巧妙につくられた暗號の鍵でも、彼の明智に抗し得るものは一つとしてなかつた。聴取されてフイグル大佐によつてたちまち解讀された敵國の無電急報が、いまだ實施されない前に敵の處置を漏洩せしめたために收めた多くの成功は彼の賜物であつた。

聴取された敵の無電通話の迅速な解讀によつて、敵の攻撃命令が軍司令部に知られ司令部は事前に適當な處置をとるといふことはしばく實現されたことである。のちに行動が開始されるや、相手を撃破できると信じてゐた敵は、十分に準備された要撃に逢つて度膽を抜かれた。

タンネンベルグ會戦について書かれたものは多いが、おそらく彼等の助力によつて勝利がえられたと思はれるところのかの勇敢な人々のことは誰もしてゐない。獨逸無電士官たちは、その聴取局で極めて卓絶せる盜聴および解讀勤務を配置し、露西亞の軍司令部から下級指揮官にあてられた無電急報をことごとく短時間内に獨逸軍司令部に知らせ、適當の對抗處置をとらすことができたのである。

しかし、敵は技術による物質的攪亂のみにとまらず、茶毒的な政治的精神攪亂によつて獨逸帝國の基礎を搖り動かさんとした。ノースクリップ紙は萬難を排してこの攪亂宣傳に従事した。

ルーデンドルフは大戦への回想ちゆうに次ぎのごとく書いてゐる。

「われわれは戦場にあつてはほとんど最後までイニシヤチーブを掌中に握つてゐたのであるが、これに反し敵ははじめより統一戦線を結成してあらゆる方面において攻撃的に精神戦闘を行ひ、中立國における脱走兵を補助部隊とし、また遺憾ながら獨逸祖國自身のなかに支持を見出した」

敵國の極めて活潑な反獨宣傳ははじめのころは氣球によつて、のちには飛行機によつてなされた。英國の見解によれば、「最近の事件に關する『眞』の情報再現したものである」至急便のピラは、その作製後四十八時間にして獨逸軍隊およびさらに遠くその後方地域へ達した。はじめには一週あたり三十萬枚のピラが、次いで一日あたり十萬枚、さらにその後は一ヶ月あたり五百五十萬枚のピラが投下された。そのほか地圖、偽の獨逸新聞、説教集、その内容が表紙に印刷された獨逸の愛國的な題名と一致しない書籍、圖表、あらゆる種類の報道などが撒きちらされた。

また、英、佛、米の大工業家の寄附金をふところにした間諜たちが、國民の愆情を刺戟し、兵士を脱走に誘惑するため、獨逸國內を歴遊してゐた。これらの間諜たちの或るものは二萬——三萬マルクの大金をもつてゐた。彼等は鐵十字の飾帶で飾られたカーキ色の制服を着て國ぢゆうを自動車で乗りまはし、列車のなかでは聯合國の意を體して、三四等の乗客に働きかけねばならなかつた。彼等は不平不満を喚起することを特別の眼目としてゐた。これらのいろんな事實は全部そのまゝ或る賣國奴の供述

によつてたしかめられたものである。

このほか獨逸防諜勤務は戰線における積極的間諜活動を行ひ、そのためにとくに設けられた機械によつて電話の通話を無線で地中を通じて盜聽し、これを利用することができた技術的手段もあつた。

親友の假面をかぶつて敵に近づき、それから敵を滅ぼすといふ方法は太古から行はれてゐるものである。この深刻な民族鬭争裡にあつてできるかぎり速かに敵を屈服させるため、ありとあらゆる手段が試みられたことは敢て怪しむに足りないであらう。

# 防 諜 科 學

## 語學と間諜

間諜が語學に明るくなければならぬといふことはいまさらいふまでもないことである。しかし、これはなかなか難しい問題である。讀んだり書いたり、あるひはちよつとした日常の會話くらゐなら、さまで困難でもあるまい。やらうと思へば誰でもできることである。

しかし、間諜はこの程度の教養では仕事ができない。事實また間諜の教養はわれわれが想像する以上にふかい。その國の國民性はいふまでもなく、風俗習慣の微細な點まで研究してゐる。語學にしてもその國の言葉になりきつてゐる。訛つたりして見破

られるやうな頓馬もなかにはあるが、そのやうな間諜は軍事知識もなければ經濟知識もなく、ふかい教養もない。——といつて安心はできぬが。

有能な間諜は、尠くとも二三ヶ國の言葉を驅使する。なかには七八ヶ國語から十二三ヶ國語におよぶ語學の天才の間諜もゐないではないが、一般的にみて、二三ヶ國語のものが多い。

假りにこゝに獨逸の間諜があるとする。おそらく彼は佛蘭西語も英語も和蘭語もできるであらう。或るものは英語、白耳義語、和蘭語に熟達し、或るものは佛蘭西語、和蘭語、白耳義語をマスターするであらう。これは英國の方からいつても、ソ聯邦の方からいつても同じである。彼等は獨逸語はもちろん、伊太利語も佛蘭西語も、またロシア語も十分研究してゐるにちがひない。研究してゐるばかりでなく、それを驅使して少しも疑ひをいだかせぬまでになつてゐるであらう。

しかし、日本語を日本人のやうに話す外國人は皆無といつていゝだらう。彼等と皮膚の色、眼の色、頭髮の色がちがふやうに、言葉もまるでちがふ。だからといつて、

外國の間諜にたいして、日本人は安心していゝといふわけにはいかない。日本人と同文同種の人間がいくらでもゐる。彼等のなかには日本人ではないかと思ふほど、巧みに日本語を操るものが尠くない。彼等が外國の間諜になつたときのことを思ふと體が痛くなつて來る。

### 島津藩と防諜

しかし、また、言葉が防諜の役目を果すことがしばしばある。歐洲大戰においてもアクセントによつて見破られた間諜は數知れない。

わが國においても島津藩が、言葉によつて防諜の實をあげたことは有名である。あの薩摩言葉を自由に話すことは容易ではない。今日においても他國のものはほとんど聞きわけることができないだらう。徳川三百年の治政において、大藩島津家がひとり安泰でありえたのは、まったく防諜のせりであるが、その根幹をなすのが薩摩言葉であることを思ふと、盡きない興味が湧きあがつて來る。しかも島津家は關ヶ原におい

て石田方についた雄藩である。

しかし、その島津公が、三代將軍家光公の御前で青くなつた話がある。

徳川歴代將軍のうち、家光公はもつとも巧妙に間諜政治を行つた將軍である。彼の時代になつてやうやく徳川三百年の基礎が固められたことは、もはや語るまでもあるまい。いはゆる隱密政治によつて、その基礎が固められたのである。豊臣恩顧の黒田、加藤、福島の諸大名が、種々の難題をもちかけられて取り潰されたのは、まったく間諜政治の罫にひつかゝつたからである。その家光公が、島津家に眼をつけぬはずはない。關ヶ原の恨みもあり、島津家は陰謀を企てるおそれがあると内々思つてゐたであらう。もちろん多くの間諜が放たれたにちがひない。しかし、筆者は江戸を出發した多くの間諜はことごとく失敗したのではないかと思ふ。なぜかといふと、島津藩の防諜は、地の利とともに言葉の武器で完璧である。これを克服することは交通不便な當時を思ふとほとんど不可能である。しかし、家光公のもとには、島津家の内情がこまごまと記されて届けられた。焼明礬で書いた紙をこまかく切り紙然に燃つて紙の厚司

(柔道着のやうなもの)をつくり、届けられたのである。

或る日、家光公は、登城した島津公にむかひ、

「貴殿のお國元の奥庭にある、あの色の變つた菖蒲の花は立派だな」

といった。島津公がこの不意の言葉に愕然としたことはいふまでもなからう。その奥庭は祕密會議の場所で、それを將軍が知つてゐようとは夢にも思はなかつたからである。しかし、島津家にもぐつたこの間諜は、おそらく將軍家から派遣された間諜ではないだらう。島津家の内部のものが將軍家に通じてゐたにちがひあるまい。

なほ隠密は隠し目附ともいつた。戰國時代諸大名のあひだに忍目附といつて、なかま中間、こびと小人の目附があり、または近臣、忍組等のものが主命を受けて地方に潛行し、その形勢を探つて報告するものがあつた。間者ともいはれ、彼等はいろいろ變装したものである。

この島津藩の話は、われ／＼は外ばかりでなく、常に内部にも、警戒の眼を放つてゐなければならぬことを、よく物語つてゐる。海に圍まれてゐようと、言葉が難しか

らうと、間諜にとつては問題にならぬ。方法はいくらでもあるのである。

### 祕密インキ

焼明礬は一種の祕密インキである。いつごろから使はれたか、はつきりわからぬが、わが國でもずるぶん古くから使はれてゐる。焼明礬を溶いて書いたものを火で焙りだすのである。いまでは子供の遊び道具になつてゐるくらゐに普及してゐる。

祕密インキはいつごろから使はれるやうになつたのか。水につけてうきでるやうなもの、火で焙ると白くあらはれるやうなものは、千年も二千年も前から使はれてゐたのではあるまいか。

むかしの祕密インキは、玉葱やレモンの汁やミルク、あるひは唾液や尿などを使用したのであるが、それが次第に科學化され、醋酸鹽やタンニン酸、鹽化コバルト、鹽素酸加里、鐵鹽乳などを使用する方法が講じられ、前大戰で長足の進歩をとげたのであつた。現代ではさらに種類も多種多様になつてゐる。しかし、祕密インキがいかに

巧妙であつても、絶対安全といふことはできない。科學の發達した今日では、いかなる秘密インキでもすぐに検出できるからだ。

この秘密インキの使用について、ルードウィヒ・グラインはその「手記」のなかで、さすがに軍事間諜らしい意見を述べてゐる。彼は前大戦で英國の輜重隊に潛入し、司令部附將校の專屬運轉手となり、驚くべき仕事をなしてゐる。この「手記」は邦譯がある。『或る獨逸間諜の手記』といふのがそれで、文學としても傑れたもので、いはゆる間諜小説といふよりかぎりなき愛と眞實にあふれた國民文學といふべきであらう。話が横道にはいつたが、グラインはかういつてゐる。

「わたくしは大戦ちゆう秘密インキの使用を避けてゐた。このインキは必らずスパイのわなとなるものである。スパイが嗅ぎつけられないで澤山の手紙を送ることはできる。しかし、一度秘密インキを使ったのを發見されたら、その證據だけでこれを死刑にすることができるのである。絶対に秘密なインキはまだ發明されない。大戦ちゆう獨逸の科學者は常に新しいインキをつくつた。しかし、これに劣らず聯合國側の科學

者はそのインキを露出せしめる薬品をつくり出したのである。秘密インキの使用については、多くのスパイによつて見遁されるもう一つの點がある。これが原因となつて殺されたものは一人や二人にとゞまらない。それは普通の尖つたペンで秘密インキを使つてはならないといふことである。普通のペンを水に浸して、これで字を書いて見るがいゝ。これを沃度の蒸氣のなかに入れ、ば文字ははつきりする。慎重な檢閲官ならこのくらゐのことはやるだらう。普通のペンで書けば紙の面に疵がつくのである。これは極く僅かだから肉眼では容易にわからないが、顯微鏡で見ればすぐ嫌疑がかけられ、蒸氣室内の沃度によつてはつきり現はれる。だからスパイが秘密インキを使ふときには普通の鐵ペンの代りに小さな硝子の玉のついたペンをもつて歩く。これを使へば紙面に疵がつかない。で、特に適當な薬品を使はないかぎり紙面には嫌疑を招くやうなものは現はれない。しかし文字が嫌疑をかけられなくとも玉のついたペンが疑はれるだらう。玉のペンを必要とするものには唯一の目的しかない。従つてこのやうなペンをもつてゐるところを捕へられると、スパイだといふことになるのである。英



國で銃殺された二三人のスパイは全くこの不幸な道具をもつてゐたために運命が決したのであつた」(菅原孝氏譯)

しかし、前大戰で獨逸が科學者を總動員して發明した優秀な祕密インキは、大いに英佛側を悩ましたのであつた。英佛側ではこの祕密インキで書かれた、文字の見えない通信を發見するために國境を通過する郵便物には、特に嚴重な檢閲を行つたが、最初のあひだは發見することができなかつた。それは祕密インキで書いたものを現像する藥品が發見されなかつたからである。その後やうやく英佛の科學者たちが、祕密インキの謎を解いて有頂天になつてゐるときには、すでに獨逸では一步進んだ藥品を使つてゐた。いままでの苦心がなんにもならぬことになつた。常に一步一步先へ進んで行く獨逸間諜の祕密インキには英佛側も手のつけようがなかつたのである。はじめは一つの藥品であらはれたものが、二薬も三薬も化合しなければあらはれてこなくなつたので、依然として獨逸間諜は思ふまゝの活動をしたのであつた。

この祕密インキを間諜が携帯する方法も、なか／＼研究が積まれ、巧妙を極めたも

のである。

こんな挿話がある。或るとき英國に上陸した二人の男が、偽造された旅券をもつてゐるので、その所持品を嚴重に調べたところ、たしかに間諜にちがひないのであるが、これといふ證據が見つからない。それでもあれこれ調べてゐるうちやうやく、一人は祕密インキを混入した煉齒磨をもち、もう一人は石鹼をもつてゐることがわかつたので捕縛した。その祕密インキは高い濃度の藥品で、幾倍もうすめて使はれるものであつた。

このほかにも、海綿や煙草入れに隠したものの、蠟燭のなかに祕めたものなどがあつた。

かうした經驗から、英佛側は入國者にたいして、いつそう嚴重に所持品の取調べを行ふやうになつた。獨逸側ではまたすぐにその對策を案出して檢閲の眼をくゞらうとした。そして、いろ／＼な方法が實行に移された。祕密インキを香水の瓶のなかに入れて携帯させたり、その匂ひを香水のやうにしたり、しかし、それものちには發見さ

れた。さらにハンカチ、ソフトカラー、手袋、帽子、襟巻、シャツ、ネクタイなどの一部分に浸みこまず方法も考案された。また、膏薬や粉薬や錠剤にしたものもあつた。これらのものは蒸溜水か、あるひは特定の溶液にひたしさへすれば、たゞちに祕密インキができるのである。

英佛側でもつひにこのことを知り、研究に研究を重ねてゐるとき、また一人の間諜を捕へた。こんどはどんな祕密インキをもつてゐるだらうかと思ひ、調べたところ、黒いネクタイの一部に、玉蟲色の小さい斑點があるのを發見し、これを蒸溜水にひたしてみると、その水が見る見るうちに黄色に變化したので、祕密インキであることがわかつた。それ以後こいつは怪しいと思ふと、彼がもつてゐるもの着てゐるものを、みんな蒸溜水で試験することにしたのであつた。しかし、獨逸はまた一案をめぐらして、靴の紐とか、蒸尾服のチェックの布でつつんだ釦などに薬をしみこまして入國さした。かうして祕密インキも、その携帶法も、次ぎから次ぎに進歩して行つたのである。

また、得た情報を記入する場所もいろ／＼研究された。封筒の垂れや郵便切手の裏

に書かれたり、封筒の裏についてゐるうすい紙に書かれたり、繪はがきを器用に割つてそのなかに書きこんだり、寫眞の裏に書いて臺紙に貼りつけたり、人體の一部(背中や頭の地など)に書きこんだり簡便に利用されるものはことごとく使はれたのであつた。

### 通信方法

間諜の一番困難な仕事は、得た情報をいかに通信するかである。情報を得るといふことはさまで困難ではないのだ。祕密ほど嗅ぎやすいことはないといふのは、たしかに一つの眞理であらう。祕密はどこからか洩れるものだ。人間は祕密を祕密としてなかなか維持できないやうにつくられてゐる。祕密を知ると、それを吹聴したがる本能がある。間諜はこの微妙な人間心理の隙間から情報をつかむのである。その情報を間諜は、どうして通信するか、その方法はおそらく種々様々であらう。しかし、その主なる方法は大概次ぎのごとくである。

無電機によつて通信を送る。これは全世界にどこへでも送ることができる。無電機

は自動車のなかにとりつけたり、クッションのなか、壁のなかに忍ばしたり、義足のなかに仕掛けたり、人眼につかぬやうにいろく工夫する。方向探知器があるが、ほとんど役に立つてゐないのは、間諜が移動するからである。ひとところにじつとしてゐるやうな間の抜けた間諜はどこを捜してもゐないだらう。

棒のなかに、あるひはステッキのなかに巻きこむ。仕込杖やステッキ兼用の蝙蝠傘のことを思へば、どんな仕掛けであるか容易に想像がつくであらう。

紙巻煙草または葉巻、あるひはパイプのなかに隠す。パイプのなかは二重底になつて、煙草をすつても情報は燃えない。

服や帽子のなかに縫ひこむ。あるひはコルセットやスカートの縁、手袋のなか、ネクタイや靴の紐のなかに入れる。また帽子の庇、蝙蝠傘の總、内側のバンドの下、ズボンの折返しの中に隠す。なかには秘密符號を書いたもの、秘密インキで書いたものがある。ハンカチ、カラーなどがよく利用され、ハンカチの模様が要塞圖であつたり、手袋の美しい刺繡がモールス符號であつたりする。

女性は妊娠を装つて腹に隠したり、頭を剃つて字を書き、頭髪がのびてから目的地に行つたり、また頭髪の中に忍ばしたりする。ズロースに刺繡をしたもの、看護婦となつて、赤十字の腕章内に情報を縫ひこんだものなどもゐた。

郵便切手の下に、あるひは裏に秘密インキで記入して送る。たゞ切手ばかりを送つて艦隊の所在を明らかにしたことがある。切手蒐集家を装つたのである。切手の數、その種類や貼り方、組合せ方にいろく意味をもたしたのであつた。

新聞や本の文字に針で穴をあける。穴の文字を綴れば情報になるのである。また、聖書の章句を情報に利用したことがある。

義齒のなかに穴洞をつくつて、そのなかに情報を忍ばせる。

鍵の柄の内部や使用ちゆうの蠟燭のなかに隠す。

チヨコレートのなかに入れる。

弾力性のあるゴム管のなかに入れ、これを舌の下に隠す。危険が迫つたときは飲みこむ。これを發見するためには強烈な吐瀉劑を飲ませなければならぬ。

手紙の行間に祕密インキで書き入れる。あるひは通信文の上に油繪を描く。また商品の注文によつて情報を送る。なんでもない小包の包紙の上に祕密インキで書く。油繪の上に油繪を描く。上の油繪をけずれば下の油繪——すなはち要塞があらはれたり、飛行場があらはれたりする。

肉體に祕密インキで書きこむ。

毛絲の球のなかに入れる。

小刀の鞘のなかに入れる。

獵人を装ふ。彈藥莢のなかから彈丸を引き抜き、そのなかに情報をつめ、その上に彈丸をつめる。萬一捕へられた場合發火させれば焼き捨てることができるのである。

二重底になつた菓子箱、果物箱、罐詰のなかに入れたり、罐詰の蓋の内側、あるひはミルク罐の蓋の内側などに傷をつける。傷が暗號になつてゐるのである。

多くの貝や牡蠣を送る。そのなかの一つに情報をひそめる。

懐中時計のケースやバンドに小型寫眞機を装置する。

傳書鳩に自動寫眞機を裝備したり、犬の腔門にアルミニウム管を挿入したり、魚の腹のなかに入れたり、毒蛇や猛獸を使ったこともある。

發火信號、發光信號、回光信號によつて情報を送る。煙の大小、時刻の差で意味がちがふ。ただ煙を出すだけで、或る事件の發生を報じたり、軍隊の所在を報じたりする。

風車の翼の位置とその變化で情報を送る。

教會の時計、停車場の時計、會社銀行諸官廳の時計を利用する。これは針の位置が暗號になつてゐるのである。また教會の窓が利用されたことがある。圓花窓のデザインのなかに、西部戦線の或る大きな地中要塞の見取圖を入れたのであつた。

新聞廣告がずるぶん利用された。煙草の廣告で、煙草は火藥、包紙は彈丸、箱は船積を意味するものがあつた。

いろ／＼な草花、時計材料、鐵道材料、食料品、料理の獻立などが廣告になつたことがあつた。

また「一九——二三、友人三名とともに到着、母病氣、三一六〇」といふ廣告を出したことがある。それは、「第十九區、第二十三地點に爆彈命中、死者三、市民大恐慌、三一六〇間諜」といふのであつた。

四ヶ所に別々の手紙を送り、それらを綜合すると一つの情報になるといふ方法も講じられた。三ヶ所でも五ヶ所でもいゝわけである。一つの手紙が押收されたくらゐでは平氣でゐられるのである。

扉の開け方、指のひろげ方、カーテンの開閉、窓の掃き方などで、情報を知らせたことがある。

楽譜が通信文であつたことがある。

飛行機にたいする通信方法として、羊の群を使つたことがある。數と性態によつて敵のゐる位置、要塞や砲臺の方向を示したのである。また煙突から發火信號をしたり、畑の耕し方や洗濯物の干し方で通信したこともあつた。

寫生がしばく有効に利用された。一つの繪のなかにも祕密は盛られるのである。

木の枝を折つたり、木の幹をけずつたり、木の枝に一定のものをかけたり、草を刈つたり、草を結んだり、石を一定の間隔においたり、また重ねたり、苗木の上を折つたりすることは、むかしから行はれてゐることであるが、いまも行はれてゐるのである。歐洲では十字架の建て方も一つの方法になつてゐる。飾窓の飾り方、酒場の瓶の置き方、酒の減り方にも、一つの情報が秘められた。

路傍に矢印を描いて道案内をすることはわが國でもよく行はれる。なにかの會合があると、すぐこれを使ふ。また×とか◎を描くこともある。これは路の上や家の壁などに描く。

赤外線ランプを使用して、夜の空襲を導く。赤外線ランプは特別の眼鏡をかけなければ發見できない。

掃除人になつてバケツの底に精妙な寫眞機を装置し、そして、英國の祕密を探つたソ聯邦の間諜がある。原始的に見えて、しかも近代的である。かうした方法は今後ますますさかんになるであらう。

間諜の通信は中立國においてもつともさかんである。中立國は間諜の根城となり、また連絡地點になるのである。つまりこゝで中繼されるのだ。重要な一つの通信を中立國の外交文書のやうに見せかけて、その中立國の力を借りて送ることもある。交通を遮断された同盟國に物資を供給する場合にも、これと同じ方法がよく講じられる。中立國の銀行へ金を送り、そこからあちこち轉々さして同盟國へ送つたり、するのである。

間諜の通信方法は千變萬化する。臨機應變なんでも利用するのである。

## 暗 號

暗號ははじめは合言葉であつた。それがだんく發達して、今日では各國ともに懸命に研究してをり、頗る複雑な方式となつてゐる。變化した言葉を二様に三様に變化させ、難解なものになつてゐる。うっかりしてゐると、すぐ他國に盜讀されてしまふからだ。

暗號は祕語と隱語の二種類にわけられる。

祕語といふのは、いろいろな文字や數字を組合せたもので、したがつて書かれたものだけを見たのでは、なにが書いてあるのかさっぱりわからない。

隱語といふのは、表面なんでもない文章であるが、そのなかに巧みに言葉が隠してある。

「旅行は愉快でした。天氣はよく、空は青々と晴れてゐました」といふのが、「埃太利は佛蘭西にたいして宣戰せり」となるのである。普通隱語は、子音と母音の組合せからできてゐるものである。

暗號は現代における一つの科學である。だから、どのやうな様式をもつた暗號でも必ず原則がある。その原則にしたがつて縦に横に、文字を切つたり、つないだりして、不思議な文字の組合せや數字の羅列を解讀するのである。しかし、科學的に、組織的に解讀するといつても、自國のものはともかく、敵國のものはさう容易には解讀できない。何度も失敗しなければならぬ。もう方法がないと思ふことも數多度である。し

かし、しつこく、あつちこつちの角度から解讀してゐるうちに、思はぬところから道が開けてくる。これ以上の方法はないと思つても、とんでもない方法があるには驚かされるのである。そして、原則が発見されると、もう實際の解讀は不必要になる。つまり原則が解讀そのものの價値をもつからである。

かつて暗號解讀器といふものが考案されたが、それは極めて幼稚なもので、圓盤の周圍に二十七文字が記され、そのなかの小さい圓盤に二十六文字が記され、小さい盤を回轉すると、大盤と小盤の文字が符合して、暗號が解讀されるやうになつてゐるのであるが、現在はもつと精巧なものができてゐるかも知れない。しかし、種類が多く複雑巧妙になつてゐる、なりつゝある暗號をことごとく解讀するやうな器械の發明はおそらく一つの夢でしかあるまい。

間諜の通信は、いまはたいてい無電によつてなされるが、しかし長文にわたるものはやはり暗號を使用する。こんどの大戦では、中立國および同盟國の大公使館以外の暗號電報の受付はことごとく停止されてしまった。これによつて公用以外の暗號は使

用できなくなつた。間諜の通信が非常に制約されることになつたわけであるが、だからといつて、間諜の暗躍を完全に阻止することはできない。しかし、間諜の受けた打撃は事實において甚大なものがあるであらう。

暗號の簡単な例を挙げると、「二字捨て」「一字とる」「三字捨て」「二字とる」「三字捨て」「一字とる」「三字捨て」「一字とる」「二字とる」「三字捨て」「二字とる」といふのがある。この方法で、

カワデノユキキハコブネダドツコイステキヤソコニハクスリハナイカ

を解讀してみよう。二字捨て一字だから「テ」をとる、三字捨て二字「キハ」をとる。三字捨て「タ」の一字をとる、三字捨て「イ」の一字をとる。二字捨て「キヤ」の二字をとる、三字捨て「クス」の二字をとる。これを正確に讀むと、

テキハタイキヤクス

となる。しかし、現在はこんな陳腐な暗號は使はない。暗號の研究はずつとく進んでゐる。

その代り敵國の暗號も容易に解讀し得るやうに研究されてゐる。或る間諜が敵國の大使館の窓硝子拭きになつて、硝子を拭く手の運動に基準をおいて、すばらしく簡単な暗號(省略された速記法)を用ひたことがあつた。その基本運動はたつた五種類で、それで立派な暗號になつてゐたのであつた。暗號はできるだけ簡單で、多くの意味をもたせることが大事である。複雑といふ意味は、長いといふことにはならない。短いほどいゝのである。切手の下に暗號を書きこむといふ方法は、これまでしばく用ひられたことである。熟練したものは切手の下に約千六百の文字を書くことができるといふ。これを見るには擴大鏡が使はれる。暗號の解讀はもちろん専門家によつてなされるのである。

昭和十七年二月 一日刷印  
昭和十七年二月 五日發行

防 諜 論

定價 一 圓

著 者

松<sup>まつ</sup> 本<sup>もと</sup> 穎<sup>ひで</sup> 樹<sup>き</sup>

發行者 東京市神田區神保町一ノ一

株式會社 三省堂

代表者 龜井 豐治

印刷者 東京市蒲田區仲六邊一ノ五

株式會社 三省堂蒲田工場

代表者 今井 直一

發行所

東京市神田區神保町一ノ一 株式會社 三省堂

振替東京三一一五五五 日本出版文化協會社員登錄番號第一一一五〇一號

大阪市西區阿波座下通二ノ六 株式會社 三省堂大阪支店

配給元

東京市神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社



室伏高信著

# 日本豫言

四六判 二五〇頁  
定價一七〇 送料〇九

現代評論界の雄室伏高信が、新しい日本主義にもとづくその經驗を世に問ふ雄篇。新日本が何を荷ひ、また何を果すべきかを解明して、前進日本を叫ぶ世紀の書である。

伊藤述史著

文部省推薦

# 日本の外交

四六判 一四八頁  
定價一〇〇 送料〇六

帝國外交の眞義を了知せしめるため、實踐と學理の兩面から論述した平易な外交概論であつて、更に外交と軍事・經濟・文化等との關係を究明した好著として廣く薦める。

石原廣一郎著

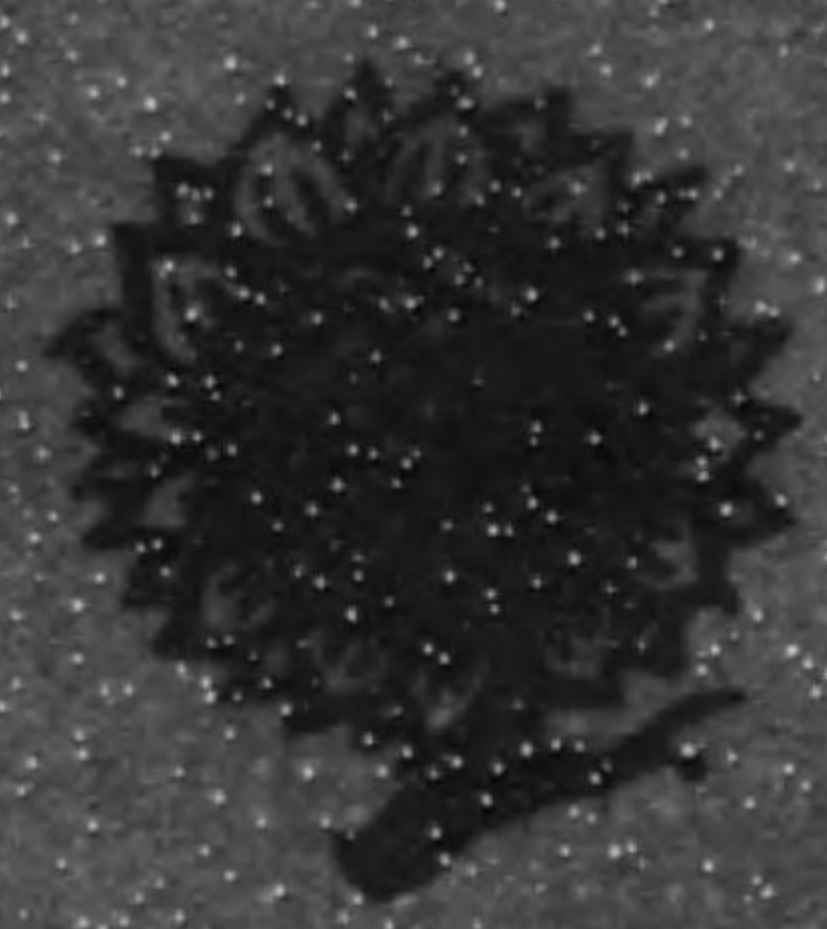
# 轉換日本の針路

四六判 三〇〇頁  
定價一五〇 送料〇九

單なる慷慨發憤の抽象論ではなく健全富強の新興國家建設を目指して、細密なる統計を示し、事實の由來を的確に證明せる東亞共榮圈確立の具體策を忌憚なく發表せる好著。

三 省 堂 刊

279M-55



Ⓢ ¥100

規格 B. 6

27M-55



停 ¥100

規格 B. 6



